

受験番号

次世代学校教育創成
サブプログラム

令和3年度

筑波大学大学院 教育学学位プログラム 博士前期課程
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題（10月期）

共通科目

(10:00～11:30)

解答要領

次の事項に注意して解答しなさい。

1. 「解答はじめ」の合図があるまでは解答を始めてはいけません。
2. 「解答やめ」の合図があれば直ちに筆記用具を置いてください。合図の後も筆記用具を持っている場合には不正行為と見なします。
3. 共通科目の問題には「教育原理に関する問題」と「教育心理に関する問題」があります。問題用紙の枚数は「教育原理に関する問題」が4枚、「教育心理に関する問題」が3枚です。
4. 「教育原理に関する問題」と「教育心理に関する問題」の答案用紙はそれぞれ1枚です。「教育原理に関する問題」と「教育心理に関する問題」はそれぞれ2問ずつありますので、すべて解答してください。
5. 答案用紙のホチキスは、外して解答してください。

【 令和3年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号	領域名
------	-----

共通科目（「教育原理に関する問題」） 専門科目 4枚のうち 1枚目

問題1 次の（ ）の中にあてはまる適切な用語を、次ページに示した選択肢の中から一つ選び、その事項の記号を解答欄に記入しなさい。

（1）障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成二十五年法律第六十五号）は、（①）（昭和四十五年法律第八十四号）の基本的な理念にのっとり、全ての障害者が、障害者でない者と等しく、（②）を享有する個人としてその尊厳が重んぜられ、その尊厳にふさわしい生活を保障される権利を有することを踏まえ、障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本的な事項、行政機関等及び事業者における障害を理由とする差別を解消するための措置等を定めることにより、障害を理由とする差別の解消を推進し、もって全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に（③）を尊重し合いながら（④）の実現に資することを目的とする。

（2）いじめ防止対策推進法（平成二十五年法律第七十一号）において「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と（⑤）にある他の児童等が行う（⑥）を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が（⑦）を感じているものをいう。

（3）教育基本法（平成十八年十二月二十二日法律一二〇号）の第四条一項には、「すべて（⑧）は、ひとしく、その（⑨）に応じた教育を受ける（⑩）を与えられなければならない（⑪），信条，（⑫），社会的身分，経済的地位又は門地によって、教育上差別されない」とある。

（4）ブルーナー（Bruner,J.S.）は、彼の著書である「⑬」において、科学や教科の基本的概念は児童・生徒の（⑭）の発達に合うようにうまく翻案さえすれば、発達のどの段階のどの児童・生徒にも知的性格をそのままに保って効果的に教えることができるという考え方を仮説的に明らかにし、一つのテーマが程度（水準）を異にして何回も繰り返されていく（⑮）の必要性を提唱している。

【 令和3年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号	領域名
------	-----

共通科目（「教育原理に関する問題」） 専門科目 4枚のうち 2枚目

選択肢（使わない用語もある）

- | | | |
|-------------|--------------|-----------------|
| (ア) 共生する社会 | (イ) 一定の人的関係 | (ウ) 障害者基本法 |
| (エ) 性別 | (オ) 文化 | (カ) らせん型カリキュラム |
| (キ) 身体的な暴力 | (ク) 教育の過程 | (ケ) 悲しみ |
| (コ) 国民 | (サ) 国際人権規約 | (シ) コア・カリキュラム |
| (ス) 資質 | (セ) 思想・信条の自由 | (ソ) 教育基本法 |
| (タ) 障害 | (チ) 能力 | (ツ) 精神的なダメージ |
| (テ) 民主主義と教育 | (ト) 権利 | (ナ) 民主的な社会 |
| (ニ) 認識能力 | (ヌ) 利益 | (ネ) 機会 |
| (ノ) 友人関係 | (ハ) 級友関係 | (ヒ) 心理的又は物理的な影響 |
| (フ) 言語能力 | (ヘ) 人種 | (ホ) 市民 |
| (マ) 基本的人権 | (ミ) 人格と個性 | (ム) 心身の苦痛 |

【 令和3年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号	領域名
------	-----

共通科目（「教育原理に関する問題」） 専門科目 4枚のうち 3枚目

問題2 A群の説明にもっとも関係の深い用語を、次ページに示したB群の中から一つ選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

【A群】

- (1) 家族をはじめ社会環境のなかで伝達される知識、言語能力、文化財などのことであり、再生産のメカニズムを説明する上で使用される。
- (2) ウォッシュバーン(Washburne, C.W.)によって提唱された。教育課程を基本教科(読み書き計算)と社会的・創造的活動に分け、前者では個別指導による学習内容の習得が、後者では集団学習による子どもの社会化がめざされた。
- (3) 社会の成員(子どもなど)が、その社会の文化(行動様式、習慣、価値など)を身につけて、一人前になること。
- (4) パーカースト(Parkhurst, H.)によって指導された。自由と協同を基本原理とするが、個別学習法として普及した。日本にも大正時代に紹介され、成城小学校や明星学園などで実践された。
- (5) 校長の職務の円滑な執行に資するため、職員間の意思疎通を図ることなどを目的に置くことができる。校長が主宰する。
- (6) 校長が作成する学校運営の基本方針の承認をする。学校運営に関して協議し、意見を述べるほか、学校運営への必要な支援に関する協議等も行うことができる。
- (7) 2018年3月に告示された高等学校学習指導要領に新しく創設された科目。主権者教育の視点から、国家や社会の形成者に必要な資質・能力を育成することを目標とする。
- (8) ブラジルの識字教育実践者であり、抑圧された人々が、識字教育を通して抑圧された状況を理解し、「意識化」する重要性を説いた。
- (9) 1940年代に様々な集団における問題に取り組みつつ研究を行う手法であるアクションリサーチを提唱した。
- (10) イギリス経験論の系譜に位置づけられる、『教育に関する若干の考察』の中で教育論を展開した。とりわけ、「健全なる身体に宿る健全なる精神」という文言は有名である。

【 令和3年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号	領域名
------	-----

共通科目（「教育原理に関する問題」） 専門科目 4枚のうち 4枚目

【B群】(使わない用語もある)

- (ア) 市民
- (イ) ペスタロッチ (Pestalozzi, J. H.)
- (ウ) フレイレ (Freire, P.)
- (エ) ウィネットカ・プラン (Winnetka Plan)
- (オ) 経済資本 (economic capital)
- (カ) 学校運営協議会
- (キ) 社会化 (socialization)
- (ク) ヘルバート (Herbart, J. F.)
- (ケ) 危機管理教育
- (コ) チームティーチング (team teaching)
- (サ) コールマン (Coleman, J. S.)
- (シ) 文化適応 (acculturation)
- (ス) ロック (Locke, J.)
- (セ) イエナ・プラン (Jena Plan)
- (ソ) 文化資本 (cultural capital)
- (タ) 職員会議
- (チ) ドルトン・プラン (Dalton Plan)
- (ツ) レヴィン (Lewin, K.)
- (テ) 公共
- (ト) 地域学校協働委員会

【 令和3年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号	領域名
------	-----

共通科目（「教育心理に関する問題」） 3枚のうち 1枚目

問題1 A群の説明にもっとも関係の深い用語を次ページに示したB群の中から一つ選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

【A群】

- (1) 実験条件を統制するために用いられる学習材料で、記憶の実験でよく用いられる。
- (2) 知的発達に大きな遅れはないのに、学習面で特異なつまずきや習得の困難をもつ者に対して使用される用語。
- (3) 受け入れがたい感情や衝動、観念を自分から排除して、他の人やものに位置づけること。
- (4) 反応によってもたらされる結果が、刺激状況と反応との結合を強めたり弱めたりすること。
- (5) マターナル・デプリベーションの理論が体系化されていくきっかけの1つになった。
- (6) テストを評価する重要な指標の1つ。
- (7) 類似した記憶課題を続けて行うときに、先行課題が後続課題の遂行を妨害する現象。
- (8) 知覚や認知の形成に関し、対象の部分や構成要素ではなく、構造や全体性に重きをおく。
- (9) 新規な状況に適応する際に必要となる能力であり、成人期以降は減退すると考えられている。
- (10) 3つの類型のうちの1つであり、筋骨たくましい闘士型の体格と親和性をもつ。

【 令和3年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号	領域名
------	-----

共通科目（「教育心理に関する問題」） 3枚のうち 2枚目

【B群】(使わない用語もある)

- (ア) 投影 (projection)
- (イ) 学習障害 (learning disabilities)
- (ウ) 全般性学習障害 (general learning disability)
- (エ) グループ・ダイナミクス (group dynamics)
- (オ) 中心化傾向 (central tendency)
- (カ) ゲシュタルト心理学 (gestalt psychology)
- (キ) 効果の法則 (law of effect)
- (ク) 妥当性 (validity)
- (ケ) アナグラム (anagram)
- (コ) 無意味綴り (nonsense syllable)
- (サ) 順向干渉 (proactive interference)
- (シ) 分裂気質 (schizothymia)
- (ス) 一般知能 (general intelligence)
- (セ) ホスピタリズム (hospitalism)
- (ゾ) 粘着気質 (viscous)
- (タ) 流動性知能 (fluid intelligence)

【 令和3年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号	領域名
------	-----

共通科目 (「教育心理に関する問題」) 3枚のうち 3枚目

問題2 A群の人名にもっとも関係の深い用語をB群の中から一つ選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

【A群】

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| (1) ベック (Beck, A.T.) | (2) エリス (Ellis, A.) |
| (3) ギルフォード (Guilford, J.P.) | (4) ハーロウ (Harlow, H.F.) |
| (5) ユング (Jung, C.G.) | (6) アドラー (Adler, A.) |
| (7) ロジャーズ (Rogers, C.R.) | (8) スピアマン (Spearman, C.E.) |
| (9) ターマン(Terman, L.M.) | (10) ヴント (Wundt, W.) |

【B 群】(使わない用語もある)

- | | |
|---|---|
| (ア) 古典的条件づけ
(classical conditioning) | (イ) クライエント中心療法
(client-centered therapy) |
| (ウ) 認知的不協和
(cognitive dissonance) | (エ) 認知療法
(cognitive therapy) |
| (オ) 集合的無意識
(collective unconscious) | (カ) 因子分析
(factor analysis) |
| (キ) 家族療法
(family therapy) | (ク) 固着
(fixation) |
| (ケ) 知能指数
(intelligence quotient) | (コ) 内観
(introspection) |
| (サ) 論理情動行動療法
(rational emotive behavior therapy) | (シ) 権力への意志
(will to power) |
| (ス) シェイピング
(shaping) | (セ) 代理母
(surrogate mother) |
| (ソ) YG 性格検査
(Y-G personality inventory) | |